（様式第４号）　　**上田市総合計画審議会（第１回市民・交流部会）　会議概要**

１ 審議会名	上田市総合計画審議会（第１回市民・交流部会）
２ 日　　時	令和６年８月２６日　午後３時３０分から午後５時３０分まで
３ 会　　場	市役所本庁舎　５階　大会議室
４ 出 席 者	中村彰部会長、山本幸恵副部会長、西入直喜委員、柳沢裕子委員、安藤健二委員、井上拓磨委員、葛西剣介委員
５ 市側出席者	小林文化スポーツ観光部長、中村丸子地域自治センター長、北沢真田地域自治センター長、酒井武石地域自治センター長、堀内市民参加・協働推進課長、小林文化政策課長、片山秘書課長、和根崎櫓復元推進室長、清住政策企画課長、宮島広報課長、市村 DX 推進課長、山崎総務課長、根岸財政課長、山岸財産活用課長、林税務課長、柳澤収納管理課長、山田移住交流推進課長、柳沢人権共生課長、緑川交流文化芸術センター副館長、山嵜市立美術館長、清水スポーツ推進課長、春原丸子地域振興課長、小林真田地域振興課長、鈴木武石地域振興課長、久保田生涯学習・文化財課政策幹、宮澤秘書課課長補佐、清水櫓復元推進室課長補佐、澤山広報課係長、小岩井総務課課長補佐、久保井行政管理課係長、村田情報システム課係長、坂口情報システム課係長、徳田財政課課長補佐、中沢財産活用課課長補佐、井澤人権共生課課長補佐、橋詰人権共生課課長補佐、関観光シティプロモーション課係長、清水住宅政策課課長補佐、古平生涯学習・文化財課係長、山越政策企画課主査、中澤政策企画課主任、宮下文化政策課係長、平田市民参加・協働推進課課長補佐
６ 公開･非公開	公　開　・　一部公開　・　非公開
７ 傍 聴 者	なし　　記者　なし
８ 会議概要作成年月日	令和６年９月 10 日

協　議　事　項　等

１　開会（堀内市民参加・協働推進課長）

２　あいさつ（小林文化スポーツ観光部長）

３　委員自己紹介

４　市側出席者自己紹介

５　正副部会長選出
　部会長　中村 彰 委員、副部会長　山本 幸恵 委員

６　正副部会長あいさつ

７　議事
（１）　第二次総合計画後期まちづくり計画の検証について
（事務局）　第二次上田市総合計画(後期)施策検証シート第１編に基づき説明
（委員）　「課題、新たな視点、方向性」の箇所で、「施策の必要性」「課題」「新たな視点」を全部書いている課もあれば、「施策の必要性」しか書いていない課もある。おそらく議論されていると思うので、フォーマットを揃えて全てに入っていた方がよいと思う。また、多くが「B」であることについて仕方ない面もあるかと思うが、新しいことにチャレンジするという意味では「C」や「D」の評価が付いてしまってもよいと思う。次の計画を立てる際には、「C」や「D」が付いても次に繋がるものであれば良いといった評価ができるとよいと思う。
（事務局）　「必要性があり引き続きやっていかなければいけない」という観点で「課題」と「新たな視点」を書いていない箇所があろうかと思う。ただご指摘の通り、「新たな視点」は持っ

ていくべきと考えるため、次回の部会でまちづくり計画素素案を示す際には、そのあたりが伝わるようなものにしていきたい。また評価についても、ご指摘のとおりBが多くなりがちではあるが、「C」は必ずしも悪いわけではない、といった市民の方の言葉は非常に有難いため、行政としても、そういった声を肝に銘じながら次回以降、評価してまいりたい。

（委員）　高齢化や定年延長等により自治会の役員のなり手が減少している。住民自治組織も同様で「協働」が困難な状況になるのではと懸念している。自治会があり、それを補完するような形で住民自治組織があると認識しているが、そもそもの自治会のあり方が今後大きく変わっていくのではないか。

（事務局）　ご指摘いただいた課題について、令和5年、6年と自治会連合会の皆さんとも毎月のように議論している。地域協議会も設立から20年目を迎えるので、自治会の皆さんとも連携しながら見直しについても検討していきたい。自治会も地域によって色々なやり方があるので、どんな課題があるのか、どのようにうまく運営している地域があるのかといったことを参考にしながら、新しい計画を作成していきたい。

（委員）　「外国籍市民の自立を図る」「社会参加を図る」とあるが、日本語教育を充実させないと、日本に来たばかりの方は社会に溶け込むのが難しい。子供も大人も自治会組織、まちづくりの組織に参加したいが出来ないとなると、外国籍市民はどうやって生活していったらいいのか。日本語教育への意欲は高いが受け皿がないのが現状。特に小中学生。現在も、小学中学生が学校では何ともできないため、土曜日にAMUに3、４人ぐらい来て勉強している。「こどもまんなか」というのであれば、誰もが日本語教育を受けられないとおかしい。今のやり方では限界を超えているため、別の方法、例えばプレクラス、プレスクールを作らないといけない。「上田市に来てプレクラスに入れば2週間はしっかり日本語を教えてくれるし、そのあとも面倒をみてもらえて、そしたら自分の住んでいる小・中学校へ行けばいい」といったシステムが出来ると全然違う。今後、特定技能も増えてくるし、技能実習も新しい制度になるため、今度そうした子どもが増えてくる可能性が非常に高いと思う。総合計画の中でもきちんとしたシステムを作り上げるところまで予算化するまで、大人を含め、計画を立ててほしい。

（事務局）　日本語学習を希望する外国籍市民の方へきめ細かな学習環境を作っていくことは、国においても2019年に「日本語教育の推進に関する法律」が施行されている。上田市としては、AMUへ委託事業として日本語教室を運営していただいている。昨年は大人・子ども合わせ受講生は延べ560人。会長が先頭切って指導に当たっていただいており、市としても心から感謝を申し上げたい。子ども・大人の日本語の学習支援に加え、オープンクラスとして土曜日にも開講いただいており、多大なご負担をおかけしていることを承知している。一番の問題は、外国籍市民の児童・生徒への支援だと思う。これはプレスクール的なものが理想であるが、県が主導で東小学校にはそのような教室も開設いただいている。南小学校のあたりなど、支援が必要な児童生徒数が増えているのも事実。本日、学校教育課は参加していないが、今後教育委員会とも十分共有し、総合計画の中でどういったことが模索できるか検討していきたい。

（委員）　令和4年に導入された公式LINEについて、友達数が現在1万4,853名となっているが、発足から2年ほど経つ中、この数値の到達状況についてお聞きしたい。

（事務局）　毎年目標値を立てており、今のところは順調と捉えている。ただ、始めた当初は一気にお友達登録をいただいたが、年々停滞気味になりつつあるため、新たな取組を検討したり、周知したりしながら登録者数を増やしていきたい。

（委員）　LINEでの発信内容の方向性は、主に災害等がメインなのか、それとも若い年代等へ向けた例えば上田市に愛着を持てるようなイベントの発信など、今後の内容の方向性について伺いたい。

（事務局）　SNSとしてはLINEとXのほか、メール配信システムがあり、基本的にはいずれかの方法で情報を取得していただければ良いかなと考えている。防災から生活安全、子育て、市のイベント情報等あらゆるものを網羅しているが、登録時に欲しい情報を選択いただけるよ

うになっているため、欲しい情報に合わせて登録いただければと思う。

（委員）　佐久市では、子育て給付金か何かのときに合わせて LINE 登録をやった結果、子育て世帯は全世帯が登録しているようだ。子育て向けの政策をやるときに、LINE で流せば全世帯に一旦届く、というのは非常に有効だと思う。LINE だと、子育て層だけに絞って情報を流すこともできるはずだし、高齢世代も LINE をやっていることが多いと思うので、世代別に全世帯に LINE 登録する、というのを目標値にしてもいいのではと思う。

（事務局）　市の公式 LINE は 50 代や 40 代の方の登録者数が多いが、30 代や 20 代など子育て世代が若干少ないように感じている。乳幼児健診の際に登録をおすすめしているが、改めて子育て担当課と調整しながら、登録者数を増やし情報内容を充実させていきたい。

（委員）　資料に「市民協働推進」「人生 100 年時代への対応」「こども まんなか」「持続可能な社会づくり」「最先端技術の活用」とあるが、これから第三次計画を作っていく上で、こうしたことも学んでいかなくてはいけないと感じた。計画の進捗だが、市民としては目に見える道路整備等において、段々と便利にやっていただいていると感じている。第二次がどれだけできたかについて、コロナ禍もあり、市民としてはあまり感じられない部分もあったが、これを見させていただく中で、官民協働が出来始めてきているように感じる。武石では、行政の方が寄り添い始めてくださっているが、まだ住民自治組織は何をやっていいか分からない状態にあると思う。是非、行政には住民が苦手な部分について助言等いただき官民協働がすすむと、地域が良くなっていくように感じる。

（事務局）　第二次上田市総合計画(後期)施策検証シート第６編に基づき説明

（委員）　市立美術館はとても市民のためになっていると思う。AMU で外国籍市民アート展というのをやらせてもらい 3 年目となるが、すごく盛り上がりを感じる。1 週間の期間中、日本人の皆さんや外国籍の方が来て、市立美術館を知り、作品を観て感動して帰っていく良い交流ができており、AMU にとってもありがたいと感じている。また「子どもアトリエ」の考え方がとても良いと考えており、もっと活用できないかと思う。夏休みや冬休みなど、小中学生だけでなく幼稚園・保育園の子どもたちも指導者がいて自由に作れる、というのを提起してもらえると、さらに盛り上がると思う。

（事務局）　私どもでも外国籍の方々に向けた鑑賞事業や教育普及事業を考えていた中、ご相談させていただき、こういう活動に繋がった。引き続き外国籍の方にとっても利用できる美術館でありたい。子どもアトリエについては未就学児から中学生ぐらいまでのお子さんを対象に、多様なプログラムを実施している。未就学児、公立の保育園、幼稚園については、必ず 1 年に一度、1 園は活用していただいており、専門人材が指導する形で実施している。一般向けも土日祝日が中心になるが、描画や創作などのプログラムも用意している。ただ、スタッフに限りがあり、安全面や実施手順等の検討などを踏まえると現状マックスな状態。そういったことも含め今後の課題としていきたい。

（委員）　6-2-1 の観光シティプロモーション課の方達には、素晴らしい活動していただいていると感じる。協力隊の皆さんを地域へ連れてきていただき、視察をしたり交流会をしたり、配置となるか否かは分からないが納得のいくことをやってくれたと喜んでいる。また、テレビ埼玉の放映については、友人・知人からも上田はいいところだねと反応があるなど、興味を持っていただけた。移住交流推進委員にならせていただいたが、協力隊の件もそうだが、先日の真田での古民家再生のイベントに対しても、こういうふうに協力していただけると住民も動けると感じた。

（事務局）　今、いくつかお話をいただいた。通番 629 では、地域の各種団体の皆様に、移住者を支えたり地域住民との交流をしてもらう上田市地域交流アドバイザーといった役割をお願いしている事業があり、そのことに触れていただいた。また、635 番については地域おこし協力隊ということで、都会から上田に移住し地域活性化の取組をする人材を確保し、取組を進めているが、今年度は協力隊を募集する中で武石地域にもお邪魔し、協力隊の候補者の方に地域を知ってもらう意見交換を行った。首都圏等からの人材確保という部分につい

て、引き続き政策展開していきたい。

（事務局）　シティプロモーションでは、首都圏向けにテレビ番組の制作と放映をしている。様々ある上田市の魅力について、有名なものから地域ならではのものも含めテレビ番組を通じ発信し、訪れてみたい、住んでみたい、その地域に触れてみたいと感じていただけるような番組制作をしていくことで、総合計画の目標に根差したものとなるよう引き続き進めていきたい。

（委員）　１編は比較的堅実な内容で、６編は比較的チャレンジする内容だと思う。定性的な話になるが、さまざま全国へ行く中でアート関係の方々に聞くと、サントミューゼや民間の犀の角さんとか、専門員の企画力を含めて芸術文化に関する評価が非常に高い。もっとＡ評価があってもよいように思う。６編はチャレンジしていく分野なので、予算をどう取ってくるかとか、先程もあった「やりたくても人が足りない」っていうのをどう効果があるかっていうところをやっていかなければいけない。移住プロモーションに関しても、佐久市では教育移住が増えていたり、小諸では国交省の取組でPRに注力し若い人の移住が増えている。上田は上田で独自の戦略があっていいと思うが、６編はもっと飛びぬけなければいけない分野だと思うので、「AやCはあっても、Bはなし」というくらい、チャレンジして欲しい。また、１編も６編もそうだが、これから上田市独自での定性調査を各課で定期的にやっていき、そのデータをもとに政策を決定し、良かったところ悪かったところを調査していく、というのが価値になっていくと思う。ＲＥＳＡＳなど定量データと組み合わせた形で、定性データをもとに政策を検討していく。ジェンダーギャップのところでも、自治体によっては定性データを取り続けて、それに対し対策を行い、結果どうだったのかを定期的に見ていく、というのをやっている。定性調査を積み重ね、政策を考え評価をしていく、といった体制ができていくと、このABCDももっと深みを増すものになり、５年後10年後、いい上田市になると思うので、そういう議論もしていただけたらと思う。

（委員）　移住者の相談の層が明らかに上田市と東御市では違うというのが分かってきている。東御市の場合は、圧倒的に女性の単身のＩターンの方や、もしくは40代後半から50代ぐらいのご夫婦の方の相談が圧倒的に多い。これはシティプロモーションとしてワインを大々的にずっと掲げているためで、ワイン好きの移住に繋がっている。移住とシティプロモーション全てに関わってくるかと思うが、「何を発信するか」によって、「どんな方が上田市に興味を持ってもらえるか」というのがすごく大事。自身では５つの視点の中では「こどもまんなか」を何よりも大事にしていきたいと考えている。「自然環境」は長野県ならどこでも恵まれている。Ｉターンの方は「移住したら自分たちの暮らしがどんなふうに良くなるのか」という点をシビアに検討している。子育て世代を増やしていくと人口減少の歯止めになると思うため、例えば子育てしやすい、といった面でこれからアピールしていくと、必然と相談者層も変わってくるのではないかと思う。

（委員）　色々な意見を見て感じたのは、上田市のように新幹線駅があり、これだけコンパクトに全ての機能がまとまっているまちはあまりないのではないか。信州大学も徒歩圏内とすると、大学、小学校、中学校、保育園、子育て支援施設、市役所、県の地域振興局、美術館と、新幹線駅から歩ける距離内にこれだけコンパクトに全部がまとまっているまちはそうそうない。競争力が高いためマンションも建っていると思うので、先程の子育てもそうだが、何かそういう観点からもシティプロモーションできるのではと感じている。

（委員）　スポーツの関係になるが、第四中学のエリアでは、モデル的に中学校の土曜日曜の部活、特にスポーツで地域連携し、先生の働き方改革と合わせ、地域の皆さんにスポーツ指導できる方はいませんか、といった回覧が回った。これは学校教育の関係なのかスポーツの関係なのか分からないが、中学校のスポーツをやっている子どもに対し色々なアプローチをしていくことは必要と思うがそのあたり教育委員会とスポーツ担当部局との連携についてはどのように考えているか。

（事務局）　部活動の地域移行の話については、庁内的にも教育委員会主体で調整を取っていくところになるが、まだ全体的な方針は決まっていない。そうした中で第四中学が一つのモデル

になればと進められていると聞いている。地区によらず市内全体の中で、同じ環境下で部活移行ができるとよいかと思っており、庁内的にも方向性が決まった中で総合計画の中でも部活移行についてどこかに入れていければと思う。

（副部会長）　活発なご意見、質問事項等ありがとうございました。先程も出たが、新幹線の駅を中心にコンパクトにまとまっているのは上田市の魅力だと思う。また、合併を経て現在の上田市があるので、中心市街地以外の旧丸子町、真田町、武石村、それぞれの魅力も出せるような総合計画にしていただきたい。

（２）　その他

（委員）　少し答えにくい質問かもしれないが、より良い会議にしていくために、どういう観点で委員から意見をもらいたい、といったことがあれば教えていただきたい。

（事務局）　資料作成に際しては、委員の皆様に内容を理解していただき、なおかつ偏った表現にならないよう公平性にも注意して記載しているため、物足りなさや遠回しすぎる箇所があるかもしれず申し訳なく感じている。従って、こうした討論を通じ議論を深めていければと感じている。また、副部会長のお話にあった地域への配慮については、本日も３センター長全て揃っており、また上田地域自治センター長もメンバーなので、地域に目を配りながら計画を策定すべきと考えており、引き続きよろしくお願いしたい。また、部活動の地域移行は国、県、それぞれ立場が違っており難しい問題。先生方の仕事改革で始まったと伺っているが、運動だけでなく吹奏楽や合唱などもあり、果たしてこうした方が地域にどれだけいらっしゃるか探すだけでも大変かと思う。スポーツ担当部局としては、まずは教育委員会として方針を決めていただき、それが定まったところで、全面的に協力していきたいと考えている。

８　事務連絡

・　次回部会開催日程について

日　時：令和６年１１月１５日（金）　午後３時頃から（全体会終了後）

（全体会：同日午後１時３０分から開催）

場　所：大会議室

９　閉会　(堀内市民参加・協働推進課長)